

民報あばしり

NO. 914

2013. 4. 21

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四四三、四四五八
F 四三、四四五七

崖崩れ農地に土砂流入

6日から7日に起きた暴風雨により、7日夜8時ごろ崖崩れが起き、沢地の農地約2千平方メートルに土砂が流入する被害がありました。現場は、大空町東藻琴と網走市稲富の境界のところ、農地の所有者は稲富に住むAさんです。

知らせを受けた松浦議員は12日に訪問して現場の状況とAさんの要望を聞きました。

Aさんは、雪解け水と道道の排水溝が詰まっていた、その水が畑を經由して崖地に流れこんだのが、原因ではないかと語っています。

オホーツク振興局では、「現地を測量したところ、畑の一番高い部分と道道の排水溝との高さを測量したが、排水溝の水が流れたとは考えにくい、雪解け水で崖地が飽和状態になっているところ



に雨が降ったために崩落したのではないかと」と関連については否定しています。また、「当日の1日の最大雨量が24.5ミリと少ないこと、積雪がゼロという状況から国で定める災害基準の80ミリに達していないことなどから、災害復旧の対象とならない」と述べて、大空町の対応を求めています。

松浦議員は、

「今、大空町が中心に対応しているようですが、何よりも大事なことは、被害を受けた住民の不安を一日も早く取り除く作業です。

役所間の責任のたらいまわしにするようなことがあつてはなりません」と述べています。



自動車リコールが相次いでいます。トヨタ、ホンダ、日産、マツダは11日、助手席のエアバック装置が破裂する恐れがあるとしてカローラ、ストリーム、キューブなどの41車種で約73万1700台のリコール(回収・無償修理)を国土交通省に届け出ました。海外分も含めると約33.8万台に上り、各国で同様の措置を取るそうです。

なぜ、このように各自動車メーカーが同じ部品でリコールの届けをするのか、おかしな話です。私が、中学を卒業して自動車会社の町工場に勤めていた頃は、このようなおかしなことはありませんでした。各メーカーは、下請け業者と知恵を出し合つて良いものを造る努力をしてきましたが、今は、コストを低くするために、一つの下請け業者が造った部品を各メーカーが注文してコストを下げています。

その結果、欠陥が見つかる各メーカーに影響が出る。これで良いのか？

TPP交渉西走

前協議が12日合意に達し、結果的に米国の重要品目の工業製品では日本側が大幅譲歩を強いられ、日本側の重要品目

である農産物では、米国の配慮はなかったということ。日本が交渉力を発揮すれば「国益」は守られるという安倍政権の主張は、事前協議で早々に破綻しています。網走市への影響は農業だけとつても、関連産業合わせて420億円(網走市の一般会計予算の2倍)に及びます。地域経済崩壊に陥る危険を感じ取り、3月議会で再度、議会の意志として出したTPP交渉参加断固反対の意見書に込められたものは食糧提供基地として自負と地域を守る気概にあふれていました。

しかし、昨年の総選挙でTPP交渉参加断固阻止を掲げ当選した2世のT議員、国会に行った商工団体の要請行動にこう言い放ちました。

「基本的には反対だが、首相が方向性を決めた以上、条件闘争に移行せざるを得ない。むしろこれからの北海道の農業をどうするか考えろといわれている」と答え、署名受け取りは拒否しました。ひどい話です

、14日管内の自民TPP懇談会で農業関係者から「公約違反の裏切り行為だ。信用出来ない」といわれて当然です。参院選でノーの鉄槌を!

流水

あの震災後、二年以上経っているにもかかわらず、復興は遅々として進まず、福島第一原発では連日のように漏水など、新しい重大事故が発生し、解決困難な問題が続発しています。しかし、安倍内閣

は「収束宣言」の取り消しを拒むのみか、業界や財界の要望に従つて、原子力規制の新基準をつくり、原発の一日も早い再稼働を狙っています。それがいかに根拠のないことかは八日に国会で行われた元調査委員会への質疑の中でも明らかです。その主な点を挙げてみると、①放射性廃棄物や汚染水の処理が限界に近い②いわゆる、ネズミ一匹の問題(管理の不行き届き)③実地調査ができなかった(会社の妨害)④子どもへの放射能の影響力を低く見積もらせるように業者に働きかけた。⑤全般的に規制当局が原発業者の虜になっている。問題山積みです。さらに原発の老朽化、活断層との重なり、住民の避難体制が不十分である。等々、原発の再稼働には、解決不能な問題点が多く、唯一の安全な解決は、「脱原発」に限ります。▼現在のようにならざるに解決困難なトラブルが続発している時に、原因究明も解決法もなしに原子力行政を進めるなど「正気の沙汰」とは思えません。原発をなくすることだけが、最も正しい方法です。ネズミに大事な電源スイッチを切ってもらおうようなことは、止めてもらいたい! (K)